

地域課題の議論と セットで1週間

東京・大田区蒲田 キネマフューチャーセンター



NPO法人ワーカーズコープ東京南部事業本部などは6月16日から22日まで、大田区蒲田のキネマフューチャーセンターで「ワーカーズ」の上映とトークセッションを開催。セッションでは、毎回地域の人たちが話題を提供し、商店街再生や高齢者の地域デビュー、障がい児や中高生の居場所づくりなどをテーマに、地域課題を考える活発な議論が行われました。(本紙 炭谷)

会場のキネマフューチャーセンター(キネマFC)は、蒲田キネマ通り商店街にある空家をリノベーションした施設。シャッター街化が進むこの商店街に人の流れを取り戻そうと昨年オープン。ワーカーズコープが運営し、コミュニティカフェと併せて、創業、起業支援や、まちおこし関連のセミナーやイベントを行っています。ワーカーズコープ東

京南部事業本部の鈴木 行委員会を立ち上げ、 毎回、地域課題に関 眺一郎さんらが、映画 商店街のいたるところ するトークセッション にもボスターを掲示しま も企画。30席の会場は りようにしたこと、 立ち見が出る日も。チ 毎回参加する人も。

「最近、あまり大人と話をしていない、地域に居場所がない」と訴える馬場さん

セッションの後はさらに交流会へ。7月18日には、仕事おこし懇談会を開催する予定

馬場さんが利用している本蒲田児童館を運営する、ほんかまた u-me事業所の鈴木 昭裕所長が「中高生が自分たちで児童館のルールづくりを始めています。今日たちまち課題が解決するわけではないが、中高生が活躍でき、地域に溶け込める場所をつくっていきたい」とまとめました。



「最近、あまり大人と話をしていない、地域に居場所がない」と訴える馬場さん



セッションの後はさらに交流会へ。7月18日には、仕事おこし懇談会を開催する予定

馬場さんが利用している本蒲田児童館を運営する、ほんかまた u-me事業所の鈴木 昭裕所長が「中高生が自分たちで児童館のルールづくりを始めています。今日たちまち課題が解決するわけではないが、中高生が活躍でき、地域に溶け込める場所をつくっていきたい」とまとめました。

「一緒に行動おこそう」の声

6月21日のトークセッション「現役中学生が語る居場所への想いから考える く子ども居場所と町づくり」では、地元中学校3年生の馬場洗希さんが話題提供(別項)。

また、「皆で企画書を作ってみたら」お祭りなどでも、小学生は中高生のいうことは素直に聞く。中高生の力を発揮できる場所が必要」など、中高生と一緒に行動を起こしていこうという意見も。

馬場さんが利用している本蒲田児童館を運営する、ほんかまた u-me事業所の鈴木 昭裕所長が「中高生が自分たちで児童館のルールづくりを始めています。今日たちまち課題が解決するわけではないが、中高生が活躍でき、地域に溶け込める場所をつくっていきたい」とまとめました。